

2020年
11月16日号 No.1590



週刊

教育資料

EDUCATIONAL PUBLIC OPINION <http://www.kyoiku-shiryō.co.jp>



潮流

志ある学生を 奨学金と人間教育で応援

一般財団法人 人間塾代表理事 仲野好重

資料

今後の主権者教育の推進に向けて (中間報告)

主権者教育推進会議

CONTENTS

▶ 2 潮流

志ある学生を奨学金と人間教育で応援
仲野好重(一般財団法人 人間塾代表理事)

▶ 5 解説・ニュースの焦点

○小学校から主権者としての意識涵養を
編集部

○学校給食費の公会計化等、実施・検討は57.1%
編集部

▶ 8 経営改善につながるプログラミング教育

特別支援教育における位置付け
山崎智仁(富山大学人間発達科学部附属特別支援学校教諭)

▶ 10 特別企画

GIGAスクールサポーターの活用法は？

▶ 12 校長講話

1・2学期の子どもの成長を感じ勇気と思い
やりを考える講話

山口麻衣(東京都文京区立千駄木小学校校長)

▶ 14 目と身体と脳をつなぐビジョントレーニング

極めて実践的なトレーナー養成講座①

横田幹雄(一般社団法人 日本ビジョントレーニング普及協会理事)

▶ 16 実践！校長塾

キャリア教育を考える③
～管理職の役割～

塚田 薫(茨城県大子町立依上小学校校長)

▶ 19 資料

今後の主権者教育の推進に向けて(中間報告)
主権者教育推進会議

▶ 32 月間教育ファイル

▶ 35 教育の危機管理

子どもが大人に成るために(1)何が問題か
安藤 博(子ども法学者)

▶ 38 向山行雄のドキュメント『学校経営』

新卒教諭の学級崩壊

向山行雄(敬愛大学国際学部教授・こども教育学科長、全国連合小学校長会顧問)

▶ 40 玉置崇の新学期指導要領 現場での生かし方

学習評価の在り方を考える①

玉置 崇(岐阜聖徳学園大学教育学部教授)

▶ 42 変わる教育委員会

大学との連携教育で深い学びを実現する

板山英信(滋賀県・長浜市教育委員会教育長)②

▶ 43 教育問題法律相談

いじめ防止のための措置と懲戒処分の関係
佐藤香代(弁護士)

▶ 44 通信・議会質疑

感染症対策⑦

▶ 46 変わる！英語教育

家庭学習の事例集を提供一千葉県⑤

編集部

▶ 48 BOOK

『発達障害のウソ』

『世界に出ても負けない子に育てる』

▶ 49 自著を語る

『「新しい学校生活」のための感染症対策ハンドブック』

鎌塚優子(静岡大学教育学部教授)

▶ 50 元中学校長 浅田局長の文科省日誌

横浜市の小学校と日本語支援拠点を訪問
さり気なく手を取っての指導に感じたこと

浅田和伸(文部科学省総合教育政策局長)

▶ 52 マイオピニオン

「指導」は一瞬で「暴力」に変わる

木村泰子(大阪市立大空小学校 初代校長)



撮影：浅葉美穂 (Miho Asaba)

なかのよしえ
仲野好重さんに聞く

一般財団法人人間塾代表理事

潮流

志ある学生を奨学金と人間教育で応援

未来を担い、社会に貢献する人材を世の中に送り出すとともに、志ある学生に給付型の奨学金と人間教育を行うスカラーシップを提供してきた。

スカラーシップと人間教育で

一般財団法人人間塾は、志ある学生を応援するために奨学金による経済的支援と人間教育による支援を行うことで、社会に貢献する人材を育成することを目的に2011年に設立された。数多くの社会貢献事業を行ってきたブリヂストンタイヤ創業者の石橋正二郎の思いと原資を受け継ぎ、石橋氏の孫の井上和子さんが設立したもので、未来を担う若者を支援するために返済義務のない奨学金を給付する「井上和子スカラーシップ」と「人間教育」をテーマにしたセミナーや研修などを実施している。

仲野 当初は「人間塾奨学金」と称していました。日本では奨学金というと学費意欲はあっても経済的な理由があって申請するというイメージがあります。そこで3年前から「井上和子スカラーシップ」という名称にして、生活が大変だから給付するということではなくて、志を持って日本をよりよい国にしたいという学生の思いを応援するものということが明確になるようにしました。経済的な理由ではなく、真摯に勉学に励み、真剣に人生を生きようとしている大学生に給付するこ

とで、社会に貢献する人材を応援しようというものです。学んだことを生かして誰かの役に立ちたいという志を実現するためには、大学での勉学のほかに、色々な人と出会って、自分をより深く見つめ、自分に与えられた使命に気づかせてくれるような人間と出会う機会が必要と考えて、人間教育にも力を入れてきました。

このスカラーシップは、関東圏の大学に在籍している大学2〜4年生を給付対象とし、人間塾の設立理念や活動方針を理解している学生に、原則として月10万円を1年間給付する。再申請の審査に合格すれば、1年毎に更新もできる。

人間塾の活動は、昨年度の場合、入塾式、始業式、小豆島遍路研修、夏季合宿、シンポジウム、クリスマスディナー、まとめ合宿、修了式などを行ってきた。このほか、塾生が人生の目的と意義を見出していく約20回もの「ヤングセミナー」や塾長との面談を通じた「自己発見」の場を設けてきた。

仲野 人間塾には「恩送り」という言い言葉があります。人間塾での活動を通して、さまざまな人との出会いがありますが、その人に「恩を返す」のは当たり前で、さらに受けた恩をまだ見ぬ人にバトンタッ

チしていくことを卒業時に決意することを表した言葉です。民間の財団法人には多くの場合、背後に企業がいますが、私たちの財団法人は個人が設立したものです。ですから学生にお金だけ給付して終わりではなくて、人間塾の活動を通して、社会の役に立つ人間になるために、アルバイトに追われることなく、伸び伸びと豊かに大学での学びを広げ、深めること、そして社会に出たときにその志を実現していく人間になってほしいという設立者の井上の思いが出発点になっています。

「コロナ禍で不安を感じる学生」

人間塾では、8月にコロナショックで苦しむ首都圏で1人暮らしをしている学生400人を対象にアンケート調査を実施した。その結果、▽学生の3人に1人はコロナ禍の不安を「誰にも相談していない」▽将来のキャリアを描けなくなり、精神的に不安な学生が増加▽経済的支援制度を最も利用していたのは、中流家庭の学生▽志を持っている学生は、苦難の中でも前を向く傾向がある――などが分かったという。

仲野 新型コロナウイルス感染症の拡大により、多くの学生が精神的に不安を抱

えています。この不安を取り除いて学生のキャリアをサポートする人や仕組みが必要です。また、中流家庭の学生まで経済的に不安を抱える現実が明らかになりました。志を持って頑張っている学生こそ、アルバイトではなく、自身を磨く活動に専念できるような経済的援助が必要です。人間塾では、社会に貢献する人材を育成する仕組みとして、志ある学生が人生の使命や生きがいを見出すための人間教育と、返済義務のない奨学金給付を合わせたスカラーシップを提供してきましたが、こうした支援の仕組みが今こそ、もっと必要ではないでしょうか。

人間塾の事務所がある千代田区二番町は、交通の便や治安なども良かったためか、塾長である仲野さんの話を聞いた後に、夜遅くまで、大学も学年も専攻もばらばらな学生たちが、活発に議論をしているという。時には、セミナーなどで、人間塾のOBで企業などで活躍している先輩たちを講師に、議論に花を咲かせることもあるという。

仲野 人間教育という視点からすると、さまざまな自分とは異なる考え方をする幅広い人々と接する機会が、とても重要です。塾生との面談の他に、オペラの鑑

賞やディナーでテーブルマナーを実地に学ぶなど、色々な活動を行っています。

こうした活動を含めて「人に出会い、人をつなぐ、人になる。」というスローガンを8月に作りました。塾生自身も色々な学部で学んでいることも異なりますが、自分の専門以外の学生と議論をする機会は意外に少ない、と言います。また、人間塾の活動を応援してくれる社会人会員も数百人単位でいます。毎年5月に実施してきた小豆島でのお遍路体験でも、地元の人が「お接待」でお茶とミカンを用意してくれることに感謝しながら、険しい山道を歩きながら、自分を見つめて、「自分がいかに人に支えられているか」を実感する機会になっています。

自分しか創れない未来を信じる

このように、多くの人と出会うこと、そして自分の使命に気づき、自分で探し磨いた能力と可能性を生かして人と人を結びつけ、つなぐ活動を通して、悩みながらも自分が一番輝ける力を見つけて豊かな人間になっていく、というのが人間塾の活動だ。「井上和子スカラーシップ」にも「キミにしか創れない、未来を信じて」というスロ

ーガンがあるという。1人1人の学生が見つけた夢がいつか叶えられることを「信じて」、返済義務のない奨学金を給付していることを表現したものだという。

仲野 私は大学の教員として20年近くの間、経験がありますが、心理学の授業の後に、プリントを配って、学生のコメントを毎回、書かせていました。それには短くても必ずコメントを書いて戻していましたが、長くこうした活動を続けていると、学生は授業の感想だけでなく、自分の内面について悩みなども書くようになり、授業後も研究室に私の考えを聞きたいと列を作って待つようになりました。授業以外の部分で、学生たちの悩みを聞いたり、人生についてのアドバイスなどをしていくうちに、大学における人間教育に近いことを自分はやってきたんだな、と感じました。こうした教員としての体験があったので、人間塾の活動への誘いを設立者の井上さんから受けた時には、このような人間教育をやってみたいと思いました。大学生の塾生以外にも、塾出身の社会人が自主的にセミナーや仲野さんと塾生の個人面談などに顔を出すこともあるという。志を抱いて地方の公立病院に入って、地域

医療を支える医者として活躍している塾生OBの1人が、先日、仲野さんを尋ねて、病院の現場の状況や医者としての自分の悩みなどを話していったという。在学中の学生だけでなく、OBの社会人にとっても、自分の初心を思い出し、背中を押してもらえ「居場所」になっている。

仲野 本当は、大学など高等教育機関の中にも、私が大学の教員のころにやっていたような、気軽に悩みを相談できる場が必要ではないかと思っています。ところが、コロナ禍だけのせいではないのですが、こうした場が大学からほとんど消えてしまっているように感じます。人間塾の活動については、給付型の奨学金の情報も含めて、首都圏の大学の関係者には、ある程度、知っていただいています。奨学金だけでなく人間教育なども実施している団体は、まだまだ他にないのが現状です。大学に限らず、教育においては、子ども・若者たちが志を持つこと、そしてその夢を実現できるように後押しをする役割があることを、この機会に改めて考えておくべきではないかと思っています。

一般財団法人人間塾 <https://ningenjuku.or.jp/>